

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

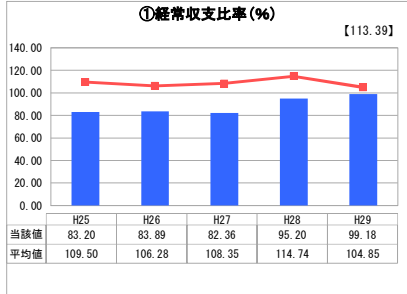
新潟県 阿賀町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	36.42	37.84	3,988	

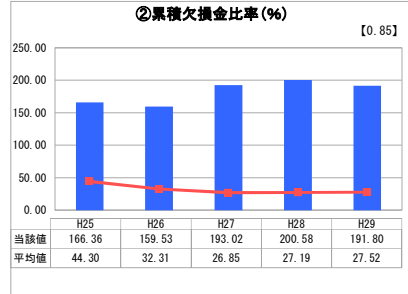
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,461	952.89	12.03
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,267	23.13	184.48

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[ ] 平成29年度全国平均

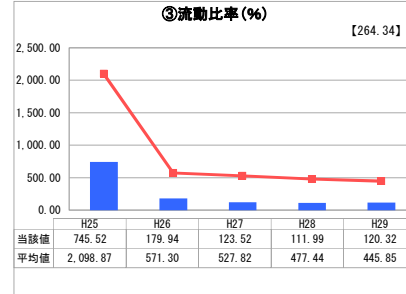
## 1. 経営の健全性・効率性



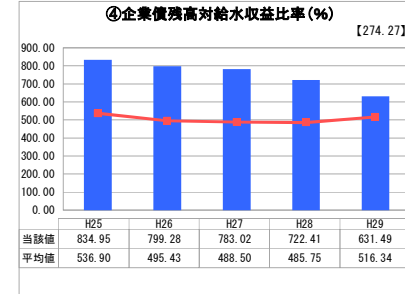
「経常損益」



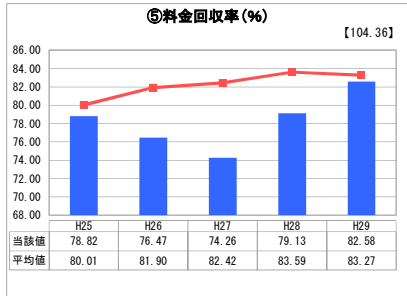
「累積欠損」



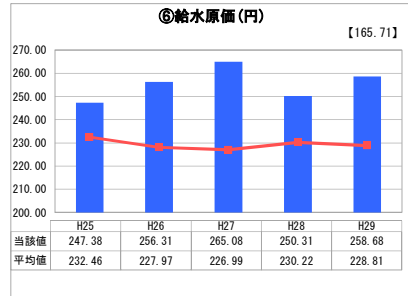
「支払能力」



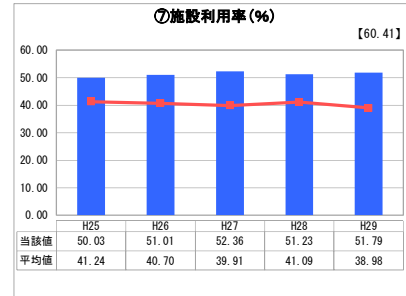
「債務残高」



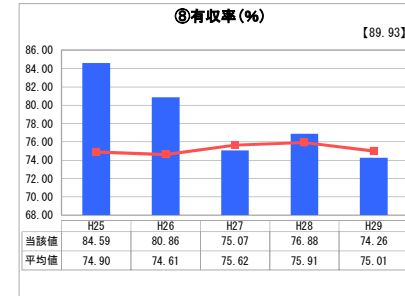
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

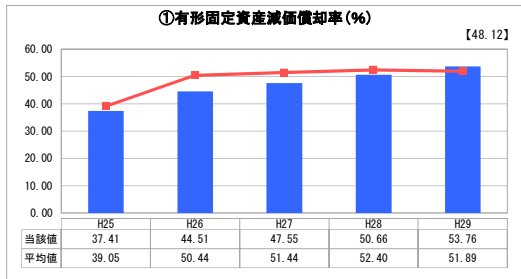


「施設の効率性」

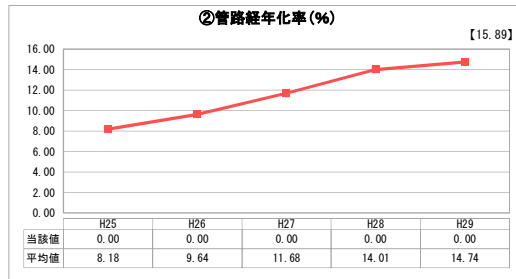


「供給した配水量の効率性」

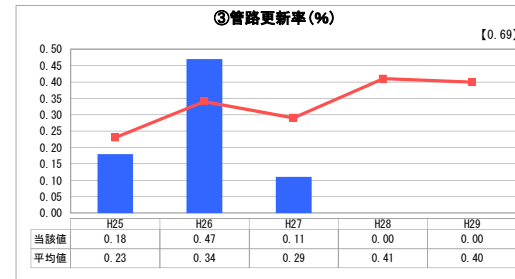
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①②平成19年度以降、経常収支比率が100%を下回っており、単年度の収支が赤字となっている。複数年度に渡り赤字が続いているため、損失が累積し次損金比率が高い数値で推移しているが、平成28年度以降、上水道の高料金対策に要する経費について総務省の繰出基準を満たしたこと、平成29年6月に料金改定（総収入で約10%の増額）を行ったことにより、経常収支比率は上昇した。

③流動資産が年々減少しており、数値は100%を超えているものの、類似団体平均、全国平均との差は大きい。

④企業債残高の規模が大きく、給水収益に対する割合も高い数値で推移している。平成32年度に償還のピークを迎えることから、平成33年度以降は年々減少していく見込みだが、類似団体平均、全国平均との差は大きい。

⑤⑥料金回収率は平成27年度に比べ8.32%、平成28年度に比べ3.45%上昇しており、類似団体との差も小差となっているが、給水原価については依然として差は大きく、高い費用がかかっていることがわかる。

⑦⑧施設利用率は類似団体平均値を上回る数値で推移している。有収率については、平成27年度に続き類似団体平均を下回った。いずれも、全国平均との差は大きい。

### 2. 老朽化の状況について

①②③有形固定資産減価償却率は類似団体平均を下回り、全国平均に近い数値で推移している。管路経年化率、管路更新率については法定耐用年数を超過した管路がないため、0となっている。

## 全体総括

少子高齢化の進展に伴い、在住人口、給水人口が年2～3%減で推移している。平成29年6月に総収入で約10%増を見込んだ料金改定を行ったが、人口減少に歯止めがかけられない状況であり、減価償却費、企業債等の償還、施設の更新投資も高い数値で推移していくことから、今後も2～3年ごと（次回は平成31年11月を予定）に料金改定を行っていく必要がある。また、適切な投資規模への改善と事業費の平準化を図り、安定した経営を目指し取り組んでいく。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。